

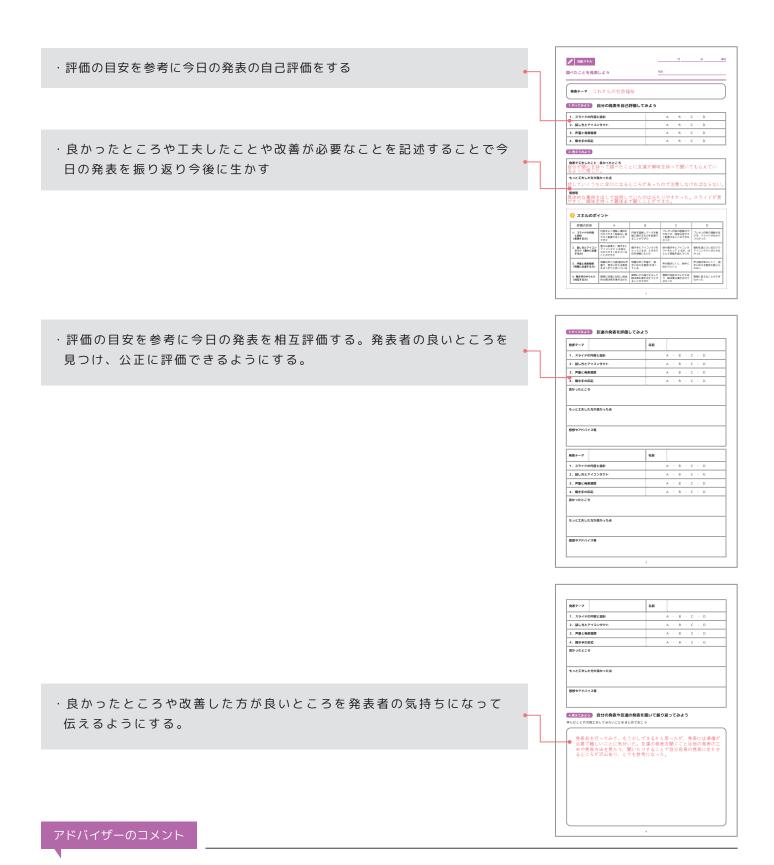
高校

情報活用能力としてのねらい 活用できる教科や学習活動 A8:口頭発表 国語表現・総合的な探究の時間 ・場の状況や相手の反応に応じて 資料の見せ方や話し方を工夫で きる

国語表現「調べたことを発表しよう」

場の状況に応じて資料を用いたて、相手の理解が得られるように表現を工夫することを目標に口頭発表会を行う。場の状況や相手の反応に応じた資料の見せ方や話し方を自己評価、相互評価してみんなで学びあう。

学習活動	準備物・留意点等
1. やってみよう 発表を自己評価してみよう	・発表者の動画を撮影する。(話し手と聞き手が両方撮れるように撮影する)・学習の展開に応じて授業者が項目を変更する。・撮影した動画を振り返り、評価に反映させる。
2. 考えてみよう 発表して自分で考えた点を書こう	 ・課題解決に向けてよかった点ともっと工夫すればよかった部分を分けて書かせる。 ・スキルポイント①を参照させて、視点を与えて文章を書くように指導する。 ・箇条書きで書いても良いことを伝える。
3. やってみよう 友達の発表を評価してみよう	・発表者の動画を撮影する(話し手と聞き手が両方撮れるように撮影する)・友達の発表の良い点をまず見つけること、そして客観的で公正に評価できるように指導する。
4. 考えてみよう 改善策をアドバイスしよう	・発表で気づいた点を記入し、メッセージをおくる・発表の良い点をみつける。



プレゼンテーションは実に複合的な学習です。伝達内容を構成する、スライドに表現する、口頭で発表するなど複数のスキルが含まれます。これらのスキルは小学生の段階から国語でスピーチをしたり、話の順番を組み立てたり、新聞づくりで見出しやレイアウトを工夫したりする経験を通して積み上げています。このノートでは4つの観点を4段階の基準で示していますが、生徒の実態に応じて、適切な観点や基準を設定しましょう。生徒と観点や基準の文言について話し合うことも効果的です。また、複数の観点を一度に評価することは難しいため、モデル指導案のように動画で撮影し、後から評価することで、自分たちの良さ・課題点や、他のグループの良さに気づくことができます。